

第2回サッカースタジアム検討協議会

三浦会長

それでは、予定した時間になりましたので開始いたします。第2回のサッカースタジアム検討協議会ということで、本日は本当にお暑いなか、お忙しいなかご出席いただきまして委員の皆様ありがとうございます。ただいまからサッカースタジアム検討協議会を開催いたします。本日はご都合により塚井委員は欠席されておりますけども他のメンバーが出席ということになっています。前回、鵜野委員は欠席でございましたので簡単に自己紹介をお願いいたします。

鵜野委員

県のサッカー協会の特任理事をしております鵜野徳文と申します。前回は出張で参加できなくて大変失礼をいたしました。私はサッカー協会の方ではスタジアムの推進部会に所属をしております。サッカーの試合も色々な所に見に行っておりますし、また、8年間海外に住んでいたこともありますので、一サッカーファンとして、また一市民として、また一経済人として議論に参加させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

三浦会長

ありがとうございました。

それでは、進めていきたいと思えます。前回スタートした段階で、再度、今回の協議会の目的について確認して欲しいとの意見がありました。前回の資料をお持ちの方は、もう一度サッカースタジアム検討協議会の規約を見ていただければと思います。そちらの最初のところに目的が書かれています。これをもう一度確認のために読ませていただきます。広島におけるサッカースタジアムについて、その規模、建設場所、管理運営方法、事業スキーム、事業収支、類似施設との棲み分けなどといった整備に係る諸課題について議論し、解決策（あるべき姿）を取りまとめ、行政及び経済界へ提案していくということになっています。したがって、そこに書いてある様々な事について、まず、私達は議論をして、どういった姿が良いのかということについて考え、そして、行政や経済界の方に提案をすることになります。そのことを再度確認させていただきたいと思っております。それから、前回、広島市長が来られ、広島に求められるサッカースタジアムということでお話がありました。どういった規模で、どのような機能を付加して、どの場所に整備すれば広島全体の活性化に繋がるのかということ、そして、それを実際に実現化する時には、建設とか管理運営とか色々な側面がありますが、どういった手法を用いることが良いのか、それから、現状としてはエディオンスタジアムを使っておりますけど、これについてどのように取り扱っていくのか、これは、スタジアム単体だけではなくて、あの地域一体のまちづくりを含めてどうするかということも含まれてくると思います。そういった色々なことを含めながら、まずは、ここに集ったメンバーが色々な今までの状況などを共有しつつ認識をし

て、いわゆる白紙の状態からそういったものを積み上げて議論していくことになると思います。それから、今後、スタジアムを整備することになった時には、やはり、幅広い市民、これは広島全体ということになりますけども、市民が理解をしていくことが不可欠だと思っております。そういったことから、この協議会では今までサッカーに関して関わりのあった方がお集まりですけども、どちらかというと、サッカーに関わりが薄い方や興味があまり無い方も含めて、広島市、県全体のなかでのまちづくりとサッカーとの関わりをしっかりと踏まえていって、多くの方の理解をいただいたうえでの整備に繋がっていかれると思っております。ですから、前回も議論をする際に、異論の多いかなり具体的な考えをお持ちの方もいらしたのですけども、そのあたりはスケジュールのなかで、適宜、そういった議論にも入っていきますので、適切な時期に議論、意見を言っていいただければと思っています。

それでは、今日の配布資料が手元にあるのをご確認していただきたいと思います。資料番号が付いたものからお話をさせていただきます。次第の方にもありますように、配布資料として1番から資料2、3-1、3-2、4-1、4-2、5の番号が付いたものが1から6までという資料が付いていると思いますので、ご確認をしていただければと思います。不足等はありませんでしょうか。

それでは、今日の議事はこれらの資料を用いて進めていくわけですが、第1回検討協議会で各委員から色んな意見を整理したものを資料1として付けております。最初にまちづくりにおけるサッカースタジアムの位置付けという点で議論、意見があったと思います。それから建設候補地の考え方ですね、アクセスとか、今ある西風新都のこととか、それから、特定の所ではなく幅広く検討するということも書いております。それから、収支計画、経済波及効果についても、そういったものが規模に応じて変わってくると思いますので、そういったことを長期的な視野にも立って考えていく必要があるという意見があったと思います。それから、アクセスを含めたインフラ整備もスタジアム単体だけではなく周辺も含めてあると思いますので、そういったことも議論すべき点として指摘があったと思います。こういった3つのポイントがありました。

それとはちょっと別に書かせていただきますが、旧市民球場跡地でのスタジアムの整備についてのご意見がありました。ただ、これは前回私も申したように、そこがありきで話をするということではないということをおししたわけですが、意見もありましたので、一応ここには意見としてまとめて3点書かせていただいております。これは、旧市民球場跡地の議論が進んでおりますので、そういったことを考えるとそちらの時間的な進み方ということをお慮した方がいいんじゃないかという意見もありましたし、もしそこにつくる場合には、あそこは広島のシンボルとなる場所なので、景観面も配慮する必要があるということでした。それから、先ほど言いましたように、候補の一つということは、このメンバーも認識はしていると思いますけども、そこだけということではないということに進めていきたいという意見もありました。そのため、このようにまとめております。

さらに、これらを踏まえて、今後、どう協議会を進めていくかについて、年間を通じたスケジュールについて理解をしたいというご意見もありましたので、資料2の方にそれをまとめております。

今回は第2回ということで、まずは、大きな前提として、広島におけるサッカーというものが、どういう状況にあるのかということを通認の認識としたいということにしております。

それから第3回、次回ですけど、ではということで、まちづくりということも大きなところですので、広島のまちづくりにおけるスタジアムの位置付けということになっております。

第4回以降については、中間とりまとめを3月にしますので、それをにらんで広島に相応しいスタジアムの検討ということで、そこにあげているような項目について議論することにしております。当然、専門家の意見を聴取しながら進めていくことになっております。

それから、次年度ですけども、ここでは詳細な検討に入っていくということで、秋には最終取りまとめになっております。これも、当初、協議会をスタートした時に、年度末に中間取りまとめ、それから次年度の秋に最終取りまとめという大きなスケジュールが決まっていますので、それをにらんでまとめたものになっております。

本日、第2回目ということで、サッカーの現状について共通認識をするということですが、情報としては、国内における一定規模の大会の開催状況とか、サンフレッチェ広島の経営状況、それから、広島におけるサッカー文化として、小・中・高における競技人口などについて、色々情報を収集していますので、そういったもので共通認識をすると、すなわち「広島」というまちにおいてサッカーが一つのスポーツ文化としてどういう状況にあるのかをこのメンバーで共通認識していきたいと思っています。

そういった共通認識を踏まえて、次回において、広島のまちづくりにおけるスタジアムはどうなのかということについて、しっかり議論をさせていただきたいと思っています。広島自身の活性化について、現在、こういった都市、地域というものは活性化ということをよく言われていますけども、色々な所との競争にさらされている状況です。そういった中で、お互いが競争することで高めるという考え方のもとに、より良い状況を生み出していく必要があります。そういった情勢にあるため、このテーマにしています。サッカーというものをまちづくりでどう使うのか、スタジアムそのものは器であるわけですが、そこで行われるサッカーというスポーツの文化的な面も含めて、どう広島地域で位置付けていくのかを第3回ではしっかり議論していきたいと思っています。

そうしたものを踏まえたうえで、具体的な器としてのスタジアムは、どうあるべきかということに考えが及ぶと思います。そういったことをしっかりと、次、あるいはこういった内容ですので第3回だけでは終わらないかもしれませんが議論し、第4回以降に具体的な規模とか設備についての話も入っていきますが、常にこういった位置付けを意識しながら議論を進めていければと思っています。そうやって、第2回、第3回を通じてサッカーとまちづくりについて認識が共有でき意見を交換していくと、4回目以降で、広島という地域に相応しいスタジアムがどのようなものかということについて、だんだん見えてくるのではないかなと思っています。

その時には、先ほど言いましたように、4回目以降で議論するとしている内容についてしっかり考えていくことになります。これが前半のこれから、26年度に向けてのものになっております。全体としてこういったスケジュールにしております。

なお、4回目以降は、これからの流れのなかでどうなるかということが具体的にスケジュールとして不確定な面がありますので、4回目以降ということで大きな括りにさせていただいております。具体的なスタジアムについて、先に早く議論したいというご意見もあったと思いますが、前提として、多くの方の賛同を得られることが必要だと思いますし、広島という地域において、サッカーというものがどういうものかということをしっかり認識する方が、結果的には、こういった具体的な検討についても道筋がはっきりしてくるのではないかと考えていますので、こういった流れでさせていただきたいと思っています。

それでは、本日の議題であります広島におけるサッカーの現状について入りたいと思います。

永田委員

失礼します。まず確認させていただきたいことがございまして、まず、この検討協議会自体が、サッカーのスタジアムをつくるかつくらないかということで、まず、つくるという事が前提で、我々は集まっているという共通認識であるということを確認していただきたいかなと。

また、官民一体化した協議会であるという話がありまして、我々、要するに民という形で参加していますが、官の方に、是非、同じ形でお話していただける場があればいいかなと。と申しますのは、当然ながら市とか県とかの意向というのも伺わないといけないですし、官民という形の協議会であるならば、民だけではちょっと偏ってしまう可能性もあるのかなという部分もありまして、それを危惧しております。ですから、平等として、官民と言う形で色々行政のお力もお借りしながら、そういった形で話し合っていくことが必要かなと思いますので、追加のメンバーの検討も必要かなと。

このサッカースタジアムの検討協議会において費用と言いますかコストですね、ここにかけられた費用というかコストというものが、あらかじめ一定にされていたわけですが、それ以降必要なもの、要するにどうしてもお金と言いますか、そういったコスト、この検討協議会のコストというものは、どのようなものになっているのか、つまりですね、例えばですが、実際にスタジアムへ視察に行くとかですね、そういったことも発生するかもしれません、また、色んな資料もしくはパースとか色んなものを作成する上でお願いした場合、そういった費用は、いったいどこがどういう風に負担するのか、我々にはどういった限られた予算があって、その中でどういった議論ができるのかというのを我々は考えなければいけないのかなと。

この3点、もう一度共通の検討事項と言いますか、第1回を終えた時点での確認という形で是非お願いしたいと思います。

三浦会長

まず1点目ですけど、先ほど言いましたように、スタジアムについて具体的な内容について、しっかり議論して欲しいということ。それは即ち、建設ということを踏まえて議論していくことになります。ただし、私たちが建設するわけではないので、この協議会の中で、建設するとしたらどういうものがあるかということをしっかり議論していくことにな

と思います。それを結果的には四者の方、それから、行政、経済界の方へ結論として出していくことになると思います。ただ、それがあってどう受け止めるかは、また、受け止め方のほうだと思いますけど。

永田会長

2月に市長がおっしゃってる内容が定例会見であって、サッカースタジアム検討協議会を立ち上げる以上は、簡単に要約しますと、サッカースタジアムをつくるという方向で検討して欲しいと明言されてまして、であれば、我々につくらないというネガティブなものではなくて、つくるのだったら、まず共通の土台と言いますか議論の出発ですよ、つくるつくらないという議論ではなくて、つくる、じゃあどこにつくろうか、じゃあ、まちづくりとしてはどこがいいのか、という候補地の中から選んでいくことがベストだと思いますし、そのなかで県の方、市の方、そして市民として我々の協議会が機能していくのかなと。まず、議論の出発で、ある程度つくってもらえるかもしれないし、つくってもらえないかもしれないしといった議論ではなくて、つくるから、こういうものをつくっていただきたいと思いますという議論の提示といいますか、報告書の提出が必要なのかなと思っています。

三浦委員

思いとしては、そうなると思うのですけど。

高木委員

ただいまの話の中から、つくるということをおっしゃいましたけども、つくるということの前に、現在の地元の方の意見も出てますけども、現在地で再生といいますか、もっといいものをつくる、それも今の言葉の中でのつくるの中に入るわけですか。では、つくってというのは、新しいものをつくることの他に、もしかしたら、現状のものをもっと良くするために、つくりかえるとか、再生とか、そういうことも含めたうえでのつくるというご意見でしょうか。

永田委員

私の方から解答させていただきますが、サッカーの専用スタジアムをつくる、これはもちろんどういった形があるか、ビッグアーチ、広域公園内につくるのであれば、当然、改修といいますか改築という形になってくると思いますし、他の候補地であれば、はじめからの建設という形になると思いますが、要するに、つくるつくらないの議論は終わっていると共通の認識として、つくるから、じゃあ、こういうふうに話し合っていきたいと思いますというのが必要なかなと感じております。といいますのが、市長とかですね、検討協議会の招集された、任命された我々の使命であるかなと感じているのですが、そのへんの委員全体の共通認識が必要かなと。でなければ、議論する上での出発点が違ってしまうと、当然バラバラな意見といいますか、成熟された意見にならないと思いますので、まずはつくる、つくるのであればどこにしようか、まちづくりどうかという形の方が、スムーズな動

きになると思いますので、まず、そういったことが必要なのかなと、第1回を終えて感じているところです。

山根副会長

つくりたいという感覚じゃないですか。

永田委員

つくらないというネガティブではなく、アクティブにつくっていこうとするこの動きのなかで議論をすすめていくことが必要なと感じています。

三浦委員

私もそういう感覚を持っていますが、確約までは難しいという意味で先ほどの発言をしました。私たちがそういう結論を出して、じゃあ、必ずできますかといったときには、また、それは受け手の判断になるということですね。そこまで私達が強制はできないかなというところです。

永田委員

おっしゃるとおりです。当然、我々が強制する場でもなく、そういった権限も無いわけであって、当然、こういうふうにつくりたいと思いますということを明確にするべきじゃないのかなと感じております。

山根副会長

あまり、固定的にそのように考えるのではないと思います。様々な意見があるなかで協議すべきなのがこの協議会だと思います。極端に言えばつくりたくないという意見が出るかもしれません。それがあってもいい協議会でなかろうかと思います。共通認識として、そこへ収めることは無理と思います。

永田委員

もう一度確認させていただきたいのが、市長が先般からずっとおっしゃってる中身で、我々を招集したなかで、つくる方向で、つくる検討をして欲しいということでもありますので、当然、そのなかでつくりたくないという意見もあると思うんですが、まずはつくるということを土台に我々全員がそのスタンスで立っているんだという形で、そこから、もちろん私はこういった意見でネガティブな意見、こういった意見でポジティブな意見というのがあると思いますので、まずは、つくる方向で行っているんだ、つくりたいんだということで、そのために我々は集っていると感じているんですが、そのへんはいかがでしょうか。

加藤（義）委員

スタートの時にちょっと丁寧な入り方がなかったから、今のような話が出てくると思う

のですが、私達に付託された依頼人の4者からの要請文書を忠実に読むと永田委員のおっしゃるとおりなんですね。はっきりと書いてある。それで、サッカースタジアムについては、二つテーマがあると思うんですね。一つは、サッカースタジアムが欲しいという市民の声、ファンの声があって、どこかにつくとすると、どこにどんなものができるかなと、つくってあげたいなという思いはあるのですが、やはり、どこにどんなものできて、どんな効果があるかを評価したいのが1点と、もう一つは、市民球場跡地の結論を出さないといけないので、そこには文化・芸術・広場という案で今まで進めていたけども、サッカースタジアムをあそこにつくって欲しいという色々な意見が出たから、ひとつその意見をまとめるならば文化・芸術・広場と比較評価しましょう、そこは行政の話なんですね、そのうちに文化・芸術・広場については、それぞれ検討なさってらっしゃると思うんですね、市の予算もついたりして、サッカーについては協議会の方に、もし球場跡地にもサッカースタジアムが欲しいとなれば、どんなものができるということを出してくれと、そして、来年3月春までに中間報告してくれれば、文化・芸術・広場とサッカースタジアムとを評価してみようじゃないかという話になって、二つある。だから、とりあえず最終的にサッカー場をつくるかつくらないかは、行政やら経済界、商工会議所、そういう所が市民を交えて決められるわけなんです。その一つの案として、サッカースタジアムはどこにどんなものが欲しいのかと、どんなものができるのかという答えを出してくれと、私達に付託を受けたものだと思っています。市長もそのようなご挨拶をされましたし、初日、三浦会長もそのようにまとめられました。従って、私達もその思いですっときていますので、もし方向が変わるのであれば、ここに行政も来ていただいて、4人の依頼人に確認をしておかなければいけないと思うのですが、私自身は、1回目のそういう話と私達への依頼文書を何度も何度も読んでみたらそういうことがはっきり分かるんで、やはり、つくるならどんなのかなというのが焦点ですね。後、どうするかは行政やら経済界で評価をされる一つのネタを提供するようなものかも知れません。その思いでやらないと3月にとってもできないと思います。第3回の広島のまちづくりにおけるスタジアムの位置付けというのは、広島のまちづくりをどうしようかという概念が全然ないわけですね、私達自身でまちづくりを考えないといけないのか、あるいは、サッカースタジアムがこんなまちづくりに対して効果があるよ、まちが一つできるよということを出せばいいのか、むしろ後者じゃないかと思うんですね。広島をどうつくっていくかということの中にサッカースタジアムを入れ込むのは、このメンバーでは無理な話ですね、そういう考えで私も整理して、だから、副会長がおっしゃるように、今、つくろうとかいやだとかいうのは、タイミングは早いけども、やはりそういう議論が出たっていいと思いますね。でも、一応つくるということについて検討してくれと依頼を受けていますので、できれば、事務局の傍に依頼人の4者が来ていただければ一番ありがたいのですが、まだまだ、2回目で勉強の最中ですから、そこまでは求めなくていいかなと思います。私の意見です。

三浦会長

私の方でも整理していますように、今回、スケジュールとして4回目以降のところで実際にスタジアムの規模等が入っています。それは当然のことながら、つくる方向で議論を

進めていくことです。そういった中で色々な意見が出てくるのは当然であるということで、スケジュールを作っています。そういう考え方だということでまとめさせていただきたいと思います。二つ目については、次回のことにもかかわることですけれども、まちづくりに関してということです。私はまちづくりに関連したことをしていますので、イメージがあるのですが、そういったところに関しては、関連する行政サイドからも説明に入っていただきながら、議論をして、認識をしていくことになっていくと思います。3番目のことに関しては、ちょっと私も答えることはできないのですが、たぶん、このなかでそういったものが欲しいということになってくると、要請をしていくことになるのではないかと思います。視察とかになると結構な費用になってくると思いますので、そういったものを見ないと議論ができないということであれば、それを要請していくことになるのではないかと考えております。よろしいでしょうか。

それでは、お手元の資料を見ていただきたいと思います。資料3の方に、国内における一定規模の大会の開催状況、サッカー日本代表戦の状況等について資料があります、これについては県のサッカー協会の方から説明をしていただきたいと思いますと思うのですが、よろしいでしょうか。

事務局（広島県サッカー協会）

失礼します。資料3の方をご説明させていただきます。ご覧ください。こちらの方は2006年から2012年まで日本で開催された国際大会の一覧表になっております。こちらに開催された日時と対戦、会場と入場者数を掲載させていただいております。こちら捲っていただきますと、その入場者数別に分けておりますので、こちら参考資料ということでご確認ください。こちら、なでしこ女子の大会等が抜けておりますが、申し訳ございませんでした。こちら資料3-1は以上になります。次に、3-2の方になりますが、広島県内で開催される主要大会ということで、現在行われている大会、こちらの方はエディオンスタジアム、コカ・コーラウェスト、第一競技場ということで、スタンド、スタジアム規模で大会行われる試合ということで、まとめさせていただいておりますので、こういった大会が現在広島の方で行われております。なでしこリーグにつきましては、リーグ戦としては開催されておりましたが、譲渡試合等で開催している状態です。チームが昇格した場合は、ここがサンフレッチェさんのように年間のリーグ戦ということで入ってくる状況になりますので、参考資料ということでご確認いただければと思います。以上です。

野村委員

2006年以降なんですけども、この中で、何故広島が無いかというのは、4万人以上の個席が無いということであります。それから、公式戦の場合は、見られたら分かると思いますが、皆様方にはお分かりにくいと思いますが、公式戦の場合でしたら、5万人以上というのが基本的な形になっておりますが、最後の決め手のスタジアムというのもサッカー協会が決めておりまして、ワールドカップの予選でしたら、埼玉スタジアムでやるというのがあります。それは何故かと言いましたら、埼玉スタジアムでワールドカップの予選をやって負けたことが無いという縁起を担いでいるという現状です。あとは、今の広島

のエディオンスタジアムは欠陥でありまして、ご覧になられたら分かりますけど、大型映像も壊れた状態で仮設があるということと、個席もないというのが大きな欠陥です。4万人の個席が無いというのは一つの広島においての外国の試合が開催できないというのが以上です。

三浦会長

ありがとうございます。他に何か資料について質問等がありますでしょうか。

小谷野委員

野村さんありがとうございました。日本の代表の決めの試合とか大きなフル代表の試合となると、そういう議論ですけども、ここに入っておりませんが、今年になってから神戸で日本代表が春に試合をやっておりますが、こういうキリンカップとかキリンチャレンジカップとかこうしたものは、3万人規模の個席でできますので、そういう決めの試合とかフル代表のワールドカップ予選とかになるとちょっと話は違って来るんですけども、オリンピック代表の試合とかフル代表の親善試合ということであれば、3万人規模でも十分いけるということでございます。念のため確認で。

三浦会長

他はよろしいでしょうか。今ありましたように、なでしこについては今後追加ということではよろしいでしょうか。

事務局

はい。

三浦会長

あとですね、広島県内で開催される主要大会の資料3-2の方で、全国規模、広島のものがありますが、それはそれぞれ開催されている場所は違うというふうに見たらいいのでしょうか。

事務局

現在の状況でご説明させていただきますと、Jリーグの方はエディオンスタジアムで開催させていただいております。なでしこリーグは、まだ開催をさせていただいたことはないんですが、昨年の譲渡試合では第一競技場の方で開催しております。天皇杯の方は基本的にコカ・コーラウェストの広島スタジアムで、Jリーグ同士の対戦になりますと規定がありますので、エディオンスタジアムのみとなっております。皇后杯につきまして全日本女子サッカー選手権はコカ・コーラウェストの方で開催しております。全広島サッカー選手権大会ということで、こちらの方は、天皇杯の予選となっております、こちらは、決勝はエディオンスタジアムもしくは第一競技場、コカ・コーラウェストで確保状況によって変わっております。広島県女子サッカー選手権大会以降につきましては、基本的に第一競

技場もしくはコカ・コーラウェストスタジアムの方で開催をさせていただいております。

小谷野委員

サンフレッチェが関わってるもので、抜けているものがございしますが、サンフレッチェが高円宮杯を目指して闘っているプレミアムウェスト、ユースの大会が広島の主に関田サッカー場を中心に年間9試合ホームであります。それから、プリンスカップも年によって変わることもありますけど、その下のカテゴリーの中国大会、これがだいたい県内で年間10試合、これはいろんな場所で行われております。その他エディオンスタジアムを使ってやってるものでは、毎年8月に開催されてる、バルコムユース国際カップがありまして、今年はサンフレッチェ広島ユースと広島の選抜ユースチームとチーバスとニュルンベルグと4チームを呼んでリーグ戦をやります。これは6試合をエディオンスタジアムで想定されています。県のサッカー協会がらみのものが資料3-2にあがっているかと思いますが、これまた次回までになでしこを出されると思いますが、我々ももう一度数字をチェックいたします。それと、今年、サンフレッチェはナビスコの予選を免除されておりまして、Jリーグが17試合、ACL3試合、ナビスコカップ1試合ですので今年は21試合をエディオンスタジアムでやっております。これは次回改めて数字を出させていただきます。

三浦会長

ちょっと、今、場所がでてきたので、大会別もありますけども、整理するとそれぞれの競技場でどれくらい使用されているかが分かると思いますので、よろしいでしょうか。現状を把握する時には、今、どういうふうに使われているかが必要だと思います。

その他よろしいでしょうか。

それでは次です。お手元の資料で、サンフレッチェ広島の歴史と現状ということですので、パワーポイントでの説明になると思いますので、よろしくお願いいたします。

小谷野委員

それでは、サンフレッチェ広島の歴史と現状ということで、サンフレッチェの事についてそれ程お詳しくない方も委員の方の中でもいらっしゃるかと思ひまして、資料を作らしていただきました。お願いします。

それで、サンフレッチェはプロのサッカーチームであると同時に、プロの競技以外の様々な形で広島に関わってきたということを簡単に説明いたします。

これは、私どものホームページにも書かれておりますけども、サンフレッチェの設立の目的というのは、ここに書かれている4点でございまして、広島のサッカーの競技レベルの向上とか、かつて日本リーグで非常に一時代を築きましたサッカー王国広島の復活といったようなこと、それから、中国地方全域にわたるスポーツ文化の活性化に寄与すると、ここはですね、Jリーグができた当初、サンフレッチェの関係者が、中国・四国・九州のJリーグのチームの設立に当たってですね、極めて主導的な立場を取っていたということも重要であります。また、地域と地域、人と人との交流を生み、地域社会の活性化に貢献するということで、私どもは選手・スタッフにも地域貢献活動を定期的にすることを義務

付けております。

これが、設立の経緯でございますが、いわゆるサンフレッチェ広島が昨年Ｊリーグでクラブとしてできてから２０周年ということではありますが、実は１９９２年にサンフレッチェができたというのは、広島のこのサッカーの歴史の中では、実はかなり新しい話でございます。実は一番上にありますとおり、東洋工業蹴球部創部ということで、１９３８年から面々と続く歴史がございます。戦前、広島は埼玉、静岡と共にサッカー御三家と呼ばれる日本サッカーの先進地でございます。そして、１９６５年に日本サッカーリーグが発足しましたが、実は、この日本サッカーリーグの発足当時、広島は圧倒的なサッカーの先進地域といえますか、日本代表にきましても、非常に中心的な存在でありましたし、発足時８チームのうち４チームが広島出身の監督で、日本サッカーリーグの登録選手も２位の埼玉の２２人を上回る４３人だということで、実は圧倒的な広島の時代でございます。そして、日本サッカーリーグが始まってから、４連覇を１９６８年に成し遂げたということで、これは日本のサッカー史上、燦然たる歴史に輝くものでございます。その後も、マツダスポーツクラブ東洋工業サッカー部、マツダサッカークラブと名称は変わってきましたけれども、日本のサッカーに影響を与えるオフトさんが来たり、様々な日本のサッカーのイノベーションを推進してまいりました。

これが、会社概要でございますが、株式会社サンフレッチェ広島というふうに言っておりますけれども、実際は役員も社外取締役が多く、株主も広島全域に渡ってですね、株式会社なんですけれども、地域に根ざしたＮＧＯ・ＮＰＯ的な組織になっております。役員が常勤では会長の久保、社長の私と取締役の小田ということでございますが、かなりの数の社外取締役の方が日々サンフレッチェの経営を見ております。持ち株比率が下に出ておりますけれども、エディオンとマツダ以下、中国電力、広島銀行、広島県、広島市ということで、様々な主体の方々に出資いただいております。

これは、サンフレッチェとしての実績でございますが、これは昨年のＪリーグの優勝をはじめステージ優勝、ゼロックスカップ、天皇杯その他、様々なタイトルを取っておりますけれども、やはりユースチームを含めた育成クラブとしての名声は非常に高いものと考えております。また、繰り返しになりますが、サンフレッチェのトップチームとしてのタイトルは、Ｊリーグディビジョン１とか昨年の優勝、１９９４年のファーストステージ優勝、それからゼロックスカップの優勝２回ということ、これが一番大きいところですが、実際のところ、サンフレッチェ始まる前のマツダの時代には、数え方にもよるんですが２６個か２７個ぐらいのタイトルを取っていると思いますので、そうした意味では中国地方及び日本のサッカーの中でも代表的な実績を上げているところと言って過言ではないと思います。

これは、私どものクラブ紹介だけではなくて、営業マンが持ち歩いているパンフレットなどにも常に書かれていることですが、あくまでもチームとしての勝利を第一義的には目指しますけれども、やはり、それ以上に地域社会の貢献を目指していきますというのが私どもの一番大きな目的であります。下に書いてありますけれども、特に子供達に夢を与え活力と郷土愛に満ちた「ひろしま」の繁栄に貢献するというのが、クラブの日頃の活動の基本となっております。

そうした中で、日本一の育成クラブを目指すということで、サッカーの普及活動、右下

に書いてありますけれども、幼稚園からスクール、ジュニア、ジュニアユース、ユース、プロと、こういう形で段階をおって選手を育てるということしております。

これまで数多くのトップ選手を57名輩出しております、これはJリーグのクラブのなかでもトップスリーレベルでございます。それとは別に人間形成の場としても環境を整備しております、例えば、高校生のユースのチームでプロになれなかった人へも、今度は、大学生になり、そこでまた選手になったり社会人になったりということを前提とした全寮制の教育をしております。ユースの全寮制というのは日本でサンフレッチェが先駆的に始めたもので、各クラブが真似しております。それから、昨年、高円宮杯チャンピオンシップで3連覇を達成するということで、非常に注目を浴びております。また、広島ジュニアユース中学レベルの出身者が、広島のユースではなくて、皆実高校や観音高校へ進学して広島のサッカーの競技レベルの向上にも役に立っております。皆実高校、今から4年前でございますが、インターハイで優勝ということで、登録選手の半分がサンフレッチェ絡みだったということでございます。それで、左下の地図でちょっと細くなりますけれども、広島の全域にわたり、若干、山口や島根にもありますけれども、サッカースクールを展開しております。現在、サンフレッチェファミリーとしまして、こうしたスクールや下部組織に所属している選手は1千人を超えております。

日本リーグの始めの頃は、広島が全国を席卷していたというお話をしましたが、実はJリーグができてから広島は指導者を輩出すると、指導者の宝庫として知られておりまして、これだけ多くのJリーグクラブの監督を生み出しております。

このへんは、我々はサッカーだけではなくて、どういうプレーをするか、どういうプレイヤーになるべきかということを、サンフレッチェができた時から行動規範としてまとめておりまして、小さいパンフレットといいますか、折り畳み式の携帯できるようなパンフレットがあるんですけれども、こういうことが書いてあるということで常にクリーンなサッカーをし、社会に感謝していく選手になろうということでございます。

それで、我々は、特にプロレベルであれ下部組織であれフェアプレイをする選手を優先して採用していこうということで、ここに書いてありますような清々しい選手というものを育てると、また、擁していくという形でございます。

ここも、そういう話で次のページでお願いします。

基本的にはですね、試合だけではなくて、試合を取り巻く環境のなかでベストを尽くせるという選手を我々は常に生み出そうとしております。

そして、繰り返しになりますが、これは決してサンフレッチェのなかではなくて、広島のサッカー全体に貢献できるように、サッカーの普及活動、子供達の教育活動に関わっております。地域との関わりの具体例でございますけれども、毎年、お正月と年の半ばに小学校訪問ということで広島近郊の小学校を巡回していき、選手と一緒に蹴ったり、給食を食べたり、いろんな遊びをやったりとか、体験談を聞くようなふれあいの場を設けております。

二つ目はですね、ここにありますような様々な地域活動あるいは啓発活動への協力しております。献血、オレンジリボン、ピンクリボンそれから人権擁護もかなり力を入れております。それから、国際協力もやっておりますし、震災復興支援もかなり一生懸命やっ

ています。

フレンドリータウンということで、エディオンスタジアムで試合をする時に、スタジアム正面のお祭り広場と呼んでいる広場がございますが、そこで地域の物産ブースを展開しておりまして、名産品を多く知っていただくと、当然、アウェーで相手チームを応援しに来るサポーターもおりますので、そういう方々への特産品をアピールする絶好の機会にもなっております。

それから、数多くのセミナーの講師活動をやっております。発育、発達、子供との接し方とかですね、サッカーに限らず幅広く子供の教育、青少年の育成ということに関する講師活動、セミナー活動を行っております。

それからこれは、PRサポートショップということですが、よく、お店の前にサンフレッチェの幟が立っているところをご覧になられている方もいらっしゃると思いますが、県のなかの飲食店や小売店あるいは様々な支店を持っている企業の方々とのご協力の下、サンフレッチェを通じて地域が一体化していく試みというのを展開しております。現在、県内で1754ヶ所ということでございます。

それとですね、サンフレッチェは決してサッカーだけということではなくて、トップス広島、これは、スポーツ王国広島をより強めていくためのスポーツの協議の枠を超えた連合体でございますが、JTサンダース、ワクナガレオリック、広島メイプルウッズ、広島ガスバトミントン部、NTT西日本広島ソフトテニスクラブ、中国電力陸上競技部、コカ・コーラウェストレッドスパークスそして広島東洋カープということで、こうした他の競技団体の方々とスポーツ振興事業への協力とか、地域イベントのスポーツへの参加協力を行っております。現在、トップス広島の事務局がサンフレッチェ広島のオフィスの中にございます。また、P3という愛称でご存知の広島三大プロですね、広響、サンフレッチェ、カープということで、広島の方々の元気の創出と地域の活性化ということで様々なコラボレーションをここに書いてありますように行っております。

これは昨年の優勝という話でございますが、優勝もさることながら、次のページなんですけども、実は優勝とフェアプレー賞を同時に達成した史上初のチームと併せて、佐藤寿人選手はMVPと並んで個人として2回目のフェアプレー賞を受賞したということで、サンフレッチェのサッカーのスタイルが、結果もそうですし、フェアプレーの形で世の中に広く認知されたということは特筆されるべきことだと思います。

これはJリーグを優勝した際の新聞記事ということで、クレド前のスクリーンの前に1千人集ったというような記事でございますし、次のページではですね、8万人集りました優勝パレードということで、それで、やはり国際平和都市広島のチームということで、原爆慰霊碑に献花といったような広島としてのサッカーチームとしてのこだわりとかですね、基本を忘れずにこれからも活動していきたいと考えております。

これは優勝の結果ですね。昨年クラブワールドカップに出まして5位の成績を収めたという事でございます。そうした意味で先月私ブラジルのコンフェデレーションカップズの視察に行っておりましたが、ブラジルからのコリンチャンスというチームがこの大会に参加していたこともあり、サンフレッチェ広島の名前が非常に世界的に知られてきたなど実感しております。

これは若干古い記事でございますが、3年前アジアチャンピオンズリーグ、ACLと呼んでいますが、これに参加しましたときに、対戦チームのオーストラリアのアデレードユナイテッドが原爆慰霊碑に献花を行っていただきまして、試合の前後でチームの枠を超えて平和交流をしたということでございます。

これは今年になってからの記事で、度々引用されている記事でございますが、Jリーグの40クラブのホームゲーム観戦者調査の結果ということで、サンフレッチェが地域貢献してるかどうかというのを来場者にアンケートをとったところ、90%以上の方がホームタウンで重要な役割を果たしていると解答いただきまして、選手は社会の模範として重要な役割を果たしているというのでも80.7%ということで、これは、かなり高い地域貢献及び社会への模範としても数字でございます。

次にサンフレッチェ広島の事業の現況ということを説明します。サンフレッチェ広島の年間の入場者数の推移でございますけれども、Jリーグ始まってからですね、最初の3年ぐらいはJリーグバブルと言われる時期でございまして、ここから1990年代から2000年代の初めにかけては、低迷から再建という時期でございました。2002年のワールドカップの日本開催を含めて、ここからまた再生再建期が始まりですね、一度、2007年にJ2を経験、これ2度目のJ2だったわけですけども、そこから1年で復帰してから2008年度以降かなりチームとしては安定した状況になっております。観客動員もまだまだJリーグの平均並みではあるんですけども、年間20万人から30万人に近いところまで一度上がりまして、震災の年はちょっと試合が減ったので少し落ち込みましたけども、昨年は優勝効果もあり30万人を突破ということで、今は、サンフレッチェの歴史のなかで比較的好い時代になってきたなと見ております。

これは後援会会員数とシーズンパス顧客の推移ということで、シーズンパスは年間指定席を個人に向けて売っているものでございますが、後援会の会員はだいたい10742件、これは世帯と考えていただければいいと思いますけれども、実際に入っている方はサンフレッチェの後援会2万人を超えました。これは公式な統計は無いのですが、Jリーグクラブのなかでもトップ5圏と推定されます。一方シーズンパスはようやく4千人代に達したけれども、これはJリーグで公表しているクラブのなかでもトップ10圏外ということで、サンフレッチェのファンは多いけど、まだまだスタジアムの利便性の問題などもあり、シーズンパスはちょっと増えてないなというふうになっております。

これは、順位と年間入場者数ということで、ここで一つ順位として強調しておきたいのが、プロ野球ならAクラスに相当する概念、セリーグ、パリーグ6チームのなかでAクラスは3位までですけども、それに相当する概念が、Jリーグの1部の場合は上位18チームのなかで上位7位までに入るとJリーグから賞金が貰えるんですね、これは賞金圏と言ってますが、7位以内の賞金圏を過去4年で全てクリアしているのは、サンフレッチェ広島だけでございます。2009年以降年によっては、いわゆるビッグクラブというところでも名前が入っていないクラブがありますが、広島は常に名前が入っております。一方で観客動員ではちょっと苦勞してございまして、2009年から11位、12位、11位、6位とカッコの中の数字ですけども、昨年は優勝効果もあり、ようやく6位になりましたけども、なかなかシーズンパス同様に、ベスト10に入らない年が多いというのが現状で

ございます。

テレビ放映数につきましては別途資料がありますので、そちらで協会の方にご説明いただきますが、色々な放送、スカパーを通じて全国に放送されておりますし、NHKも広島の方にも放映いただいている現状でございます。

今はサンフレッチェの歴史のなかで比較的いい時代だということを申し上げましたけども、下に書いてありますとおり、過去3回、1999年、2007年、2010年と減資や増資をしてきたということですが、過去21年間のですね、経営の数値を合算したものがこれでございます。入場料収入、広告収入、売上高、選手スタッフ人件費、営業利益、純利益ということで、だいたい年間の売上高、収入として30億円をちょっと切るぐらいが現在の規模でございますが、21年間ならしてみると、450億円ということで、だいたい年間21億円ぐらい、低迷期も入っています。ただ、収入は落ちて、選手の年俸を調整したり、それ以外のコスト削減をしたり、過去の経営者の方々が相当苦労されてきましたが、それでも、21期の累計でいきますと、純利益18億円の赤字、1年当たりでだいたい8千万円の赤字ということで、なかなか儲からないビジネスになっているということですね。スタジアム建設に関しましても、サンフレッチェ株式会社だよねと、株式会社のためになんでお金をかけてスタジアムのつくるのかという議論がよくありますけども、サンフレッチェの組織の構成もそうですけども、事業面から見てもある種地域貢献活動も含めたコストも払っているということもありですね、なかなか利益を追求するというような状況にはなっていないというところは皆様にもご理解いただければと思います。

これは、最近6年間、降格を2007年に一度経験した後、また復帰して順調に着ておりますけども、実は、最近6年間で見ても、一番下のところですが、6年のうち3年赤字でございました。

それで、今度の1月にしまった2012年度につきましては優勝効果もあり2.2億円の当期利益黒字なんですけど、実はこれはほとんど優勝効果なんですね。Jリーグの優勝賞金のうち我々選手に分配した残りというのがだいたい4千万円。クラブワールドカップの賞金、これはドルで貰ったのでアベノミクス効果で為替差益がでたんですね、円ベースで、それで合計1億円利益が出ました。それで優勝記念の様々なグッズで7千万円ということで、これを全部足すとほとんど純利益なんですね、もし優勝が無かったら、やっぱり収支トントンだったということで、なかなか厳しい経営になっているということでございます。通常、Jリーグの優勝賞金などは、選手との間で6割4割で分配されるのが業界の仕組みでございます、賞金が全てクラブに入るわけではないということでございます。

それで、今の状況ですが、昨年、株主の方々にも、ご無理を言いまして99%減資を行ったうえで増資をしたということで、累積損失は解消しましたが、これはある種自助努力というよりは本当に広島の政財界の方々にご協力を得てですね、どうにか累損を解消したという状況でございます。

純資産はおかげさまで4.9億円まで積み上がってまいりました。そうした意味で、優勝もさることながら、昨年の減増資のプロセスは本当に大変なプロセスでしたけども達成できて良かったとしみじみ思っております。

借入金残高も一時期6億円を超えましたが、昨年3億円まで減りました。ようやく財務

的なリストラが一段落ついたきたのかなという状況でございます。

これは営業収入、入場料収入、広告料収入のJリーグ全体での比較でございます。これは、サンフレッチェは昨年営業収入が31.7億円ということですが、1位が53.5億円ですので、Jリーグ平均でもあり、まだまだ浦和の半分強ぐらいにすぎないということでございます。それで、広告料収入、入場料収入ともにちょっと振るわない。広告料収入はどうかJリーグ平均に不景気のなかでもついてきておりますけども、やはり、入場料収入が広島より人口の少ない地域のクラブを含めたJ1平均よりも少ないということは、記憶に留めておくべきだと思います。私も社長になってから、この入場料収入を増やすべく様々な集客イベント等行ってますけども、なかなかここで苦戦しているというのが現状でございます。

これが、営業支出、チーム人件費ということですが、これは、だいたい支出や人件費は12位ということで、ほぼ収入に見合った支出ということで、優勝はできたとはいえずね、かなり選手やスタッフの人件費のところは切り詰めてどうにかこうにかやってる現状です。やはり、浦和や名古屋といったビッグクラブに比べるとかなり制約のオペレーションをしております。

これは営業収入や入場料収入の平均単価ということでございますが、営業収入、先ほども言いましたように11位ですね、これはJ1チームの入場者1人あたりの平均単価だと13位なんです。サンフレッチェ広島の場合は、無償招待チケットの額面金額を収入に入れて、それから交際費のところで費用計上するというダブルで計上されておまして、ここの無償招待チケットの金額を無視して、実入りの部分の収入で計ってみますと、実は1614円ということでJリーグ最下位に近いんですね、観客数がちょっと伸び悩んでるだけじゃなくて、お客さんの平均単価もかなり低いというのがポイントです。我々見ている限りでは、この無償チケットの額面を入れているのはサンフレッチェ広島だけですので、実態としてはかなり経営の圧迫要因となっていると思います。それで、平均単価を見ますと上のほうのチームというのは全てサッカー専用スタジアム、いわゆる陸上トラックがなく、サッカーの観戦に適したスタジアムということでございます。やはり、ここの部分で専用スタジアムができて入場者が増えるとともに、ここのお客の平均単価が上がってくると、かなりサンフレッチェの経営も違ったようになってくるんだろうと思います。

それでですね、結局、収入全体に占める入場料の割合も、ここの17.3%とかなり低いんですね。広告は結構苦戦しているとは言いましたが、広告収入の総収入に占める割合は相対的に高くなるという状況でございます。結果としてみると、チーム人件費が高いように見えます。売り上げに占めるチーム人件費47.9%とかなり高コスト体質にも見えますが、過去の優勝チームなどと比べますと、チーム人件費のところを見ていただきますと、圧倒的に広島が低いということですね、この青いところですが、優勝チームと各年度の広島の青いところの棒グラフの高さを比べていただきますと、かなり低いということが見て取れると思います。

これは、降格3クラブを除いた人件費をちょっと見ていただきますと、どうにかJ1に残り続けるための人件費という意味で見ますと、実はそれよりも低いんですね。地方から来たクラブが、何年かJ1にいて、また2部に落ちるっていうのが一部繰り返されている

部分もありますが、J 1 に平均的に残ろうとしているクラブの人件費と比べると、サンフレッチェ広島はそれでも劣るということでございます。

これはですね、降格3クラブを除くJ 1 の各順位ですね。1位から15位まで、過去4年間でJリーグで優勝したクラブの平均人件費はどうか、2位になったクラブの人件費はどうかというのを見てみますと、サンフレッチェは、かなり人件費に比べて成績が伸びていないということが分かっていただけるかと思います。だいたいサンフレッチェの人件費の数字で見ますと、やはり10位から14位あたりのクラブだということだと思います。

それでですね、ここが我々が今後経営が大変になるぞと、私自身メディア等で喧伝している部分でありますけども、今年度からJリーグのクラブに関してはクラブライセンス制度というものが入って、こうしたJリーグの要求する様々なスタンダードを満たしていないクラブについては、ライセンスはあげませんと、ライセンスを貰えないとどうなるかと言うと、来年からできるJ 3 という3部まで降格させられます。Jリーグが要求している色々な要求項目のなかで、設備の整った安全なスタジアムの確保と明確に謳われているというのもご記憶に願えればと思います。

5つの審査基準ということで、競技基準、施設基準、人事体制・組織運営基準・法務基準、財務基準とありますけども、特に施設基準と財務基準のところはサンフレッチェにとって極めて重要なハードルになってきているということです。

この3つですね、我々が今一番気にしているところは。一つは3年連続で赤字を計上すると3部に落とされます。それから、債務超過になると3部に落とされます。それから、スタジアム基準を満たさないと、すぐにでは無いのですが、色々警告が来たりして、なかなか改善されないと落とされてしまうということなんですけども、スタジアム基準に関しては、J 1 はまず15000人以上の観客が入ること、それから、スタジアム観客数1000人当たり洋式トイレ5台以上、男性用小便器8台以上を備えていることと、それから、スタジアムに観客席の1/3以上または観客席すべてを覆う屋根を備えることということで、このへんが非常に厳しい、我々にとってハードルが高くなりつつあるところでございます。

それでですね、前回の会合で、だいたい正味どれだけエディオンスタジアムに入るのかということで、42700人くらいで、安全上の観点から、去年の優勝決定試合で34500人で止めたと私発言しましたが、もう一度数を数えたら、結構、見えない見切り席がありまして、その部分は実際は5900席もあったということで、現在のスタジアムの収容人数というのは36770人ということでございます。なので、ギリギリ詰こんで42700人と私申し上げましたが、その後、運営などと、もう一度確認したところ、実際そんなに入らなかったということでございます。

それから、今の段階で、もう一度計りますと、客席の屋根カバー率は4.8%ということで、クラブライセンス基準の1/3をかなり下回っております。また、スタジアムがある意味、山の中腹にありますので、チケットを持っても天候が悪いと来ない人がいるというのが実は重要な問題となっております。今年、浦和との開幕戦で、我々34000人の予測だったんですけども、ちょっと1週間前くらいから天気悪いって事で、32200人に下方修正したと。それでもだいたい前売りと招待券で30000人くらいチケット

を手にしてますね、最低でも30000人だろうと思ったんですね、それが、この日午前中に雪とひょうが降りまして、NHK総合で放送があったこともあり、27900人になってしまったと。チケットを持ってっても来れなかった人、あるいは雪が降ったのでやめたという人が2000人位いまして、スタジアムのアクセスや屋根があれば、こういう来られなかった人に申し訳ない自体にはならなかったんだろうなと思います。我々が、事業計画をたてる際に使っている元の数字と言うのは、だいたいこれに近いんですけども、晴れの時で、だいたい13000人とか雨のときで11400人とかですね、これはチームが最近強くなってきているんで、晴れのときの基準はもうちょっと上げつつあるんですけども、それでも最低2000人位の差が天候によって出てきております。

それから、平日開催はちょっと離れた所にありますので、ほぼ赤字覚悟です。だいたい週末が15500人、平日が9325人と、昨晩は10000人を超えて、ほっとしたという状況でございます。この色々な問題がありますというのは、ここをちょっと読んでいただければと思うんですけど、特に20000人位になってくると交通渋滞により途中で帰っちゃう人がいるというのもサンフレッチェの今の問題だということです。

それで、前回のミーティングで私が言いました、駐車場問題でありますけど、公称50000人、実質36000人位のスタジアムに対して、一般の方が利用できる駐車場っていうのは、エディオンスタジアムだけで1000台にとどまっております。クラブが近隣の地権者に依頼して借りている駐車場というのは、現状、約2200台が上限です。先月も我々スタッフがやりましたが、駐車場スペースを確保するために臨時駐車場の草刈とかのメンテナンスをクラブのコストで現在やっております。今、ここエディオンスタジアムですけども、一番遠い西風新都エリアの駐車場まで約7キロ、こころエリアからでも1.5キロあります。これ、近隣の住民の方々にも大変なご迷惑をお掛けしているなかで、スタジアムまでこころエリアは1.5キロは歩いていかれると、ナイトゲームなんかの時には、割と暗いなか歩くという状況になります。西風新都の方はさすがに歩ける距離ではないのでシャトルバスを出すという状況になっております。そうしたなかでシャトルバスに乗るためのお客様の待機っていうのが、結構これは重要な問題になってきております。これは本当に近隣の住民の方々にはご迷惑をお掛けしているところでございます。

それでですね、色々こんな新聞記事で、交通アクセスの問題とか、バスを待つ行列が、試合によっては解消まで2時間かかるとか、こうした非常に観戦環境としては相当問題がある状態が起きております。

スタジアムに関する財務的な問題ということで、だいたい、年間いくらぐらいかけているのかということでございますが、これ単位千円ということで、デイゲーム、ナイトゲーム、平日というので出しておりますけども、だいたい直接経費は1試合当たり267万～268万円、それで警備費とかシャトルバス代を入れた間接的経費というのが249万円ということで、いわゆるスタジアム使用料とかそうしたものと同じぐらいですね。こうした間接的経費がかかっているというところが我々の経営を非常に圧迫しております。

これはですね、昔、財務的な計画を検討した際に、損益分岐点を計算した2008年の実績をもとにした資料ですけれども、だいたい15000人ぐらい入ると、ほぼ収支トントンと。最近、我々が頑張ってグッズとかを来場者へ売ったり、あるいは飲食で少し収入

を上げたりしてきましたので、15000人あれば少し黒字は出るかなという状況なんですけれども、だいたい15000人が一つの目安かなというところは変わっておりません。なので、平日開催になると15000人はまず不可能なので、平日開催が増えると赤字が膨らむという状況です。昨年、優勝争いしていた終盤の試合でも15000人は入りませんでした。

これは、市の中心部にできると経済の活性化、賑わい創出、飲食・買い物等の経済効果、それからもっとアウェイサポーターの来場を呼び込めるというところはポイントになりますし、また、宮島、平和公園と並ぶ新たな観光名所になるんじゃないか、これは、海外からも観光客を見込めるんじゃないかなと強く我々痛感しております。市民球場跡地は様々な議論があると、私どもも承知しておりますが、やはり平和の象徴としてもサッカー、スポーツということで平和のメッセージを発信していくことができるんじゃないかなと考えております。また、緊急災害時の防災拠点になる、青少年の夢の付与、サッカー文化の活性化、スタジアムの複合機能、これは今回の協議会で様々な議論を皆様にしていただくとありますが、新たな需要創出と、それから先ほど会長がおっしゃられていましたが、西日本の都市間競争へのアドバンテージと、今、若者をどうやって取り込むのかという戦略的な構想が、各都道府県や各自治体で行われているなかで、都市部にサッカースタジアムをつくっていく意味というのはかなり大きいと思います。

これはですね、我々のスタジアム建設シンポジウムに来たJリーグの方の資料をいただいたんですけども、Jリーグはよくスタジアム分析する際に、ホームスタジアムからの5キロ圏内人口というのを良く見るんですけども、広島は今33位ですね、これで見ますと。平均で32.9万人というところを8万人というところでございます。

これは、市街の中心の主要駅からスタジアムまでの直線距離、これがだいたいJリーグ平均で4.4キロ、1/3以上は3キロ以内ということなんですけど、エディオンスタジアムでは8.8キロということで、こういう統計でJリーグが示しているなかで結構下のほうにきています。

こうしたなかで、我々はスタジアムを都市の中心部、できましたら旧市民球場跡地につくっていただき、広島の経済の活性化、それから平和都市広島のアピールというものには是非役に立てていただければと思います。また、私ども儲かるビジネスではありませんが、スタジアム観戦環境の向上、アクセスの向上により幅広い方々に来ていただき、それがサンフレッチェの経営基盤の安定化に役に立つと大変に嬉しいことだと考えております。

どうもありがとうございました。

三浦会長

しっかりした資料作っていただきありがとうございました。今の説明について質問等ありませんでしょうか。

川平委員

もともとサンフレッチェの設立の目的のところですね、地域と地域、人と人の交流を生む、そこがメインだろうと思いますね、従って、その株主構成も地域の企業と行政あたり

が出資していることなんでしょう。サンフレッチェの目的は、そういったところで当然そういった活動もなさっていることなんで、それは結構だと思っています。一つ思ったのは資料のなかのスタジアムに起因する集客上の課題というところで、全座席数が42000あって実際36000しかありませんよというのが、ある意味意外だったのですが、今後、新しいスタジアムを求めるときに、収容人員をどこまで求めるのかというのが、大きな分岐点になるのかなと。冒頭にサッカー協会からも話がありました日本代表の大会がまったく行われていないのは40000人規模が無いということなんですけど、そういった日本代表レベルの試合を求めるのか、又は30000人規模で求めるのか、ということによって大きく変わってくるのかなというのが1点と、もう一つは、今のエディオンスタジアムのあのスペースで36000人なんですね、今度、30000人にしろ40000人にしろ、新しいものを想定したときに、あれと同じスペースがはたしているのかということも考えていかなければならないのかと。最後は、サンフレッチェの財務とか収支状況を詳しくご説明いただきましたけども、このサッカーのビジネスモデルとして、広告収入に依存せざるを得ないというのがあって、入場料収入だけではなかなか収支は描けないビジネスモデルなんですね。そうすると、今後、新しいスタジアムの時に、そういったものに対して、どうサンフレッチェが耐えていけるのかというのが気になる場所ですね。当然、先ほどご説明ありました、直接経費、間接経費、今、間接経費の負担が非常に大きいということですが、当然、新しい施設ができれば使用料も変わってくるでしょうし、そういったところを総合的に見ながら、こういったものを考えていくかというのを検討していけないといけないかなという気がしました。

小谷野委員

ありがとうございます。まったくそのとおりでございまして、新しいスタジアムをつくった時の収益性をどう考えるのかということの一つ重要なポイントだと思います。一方で、入場者あたりの平均単価が非常に安い、サッカースタジアムができたら単価が上がるというのと、入場者数が上がるというので、5億円内外をですね、入場料収入がかなり上がると思いますので、運営の間接費が削減されるのと並んで、スタジアムの使用料が上がっても、かなりの部分が吸収できるのではないかと考えております。また、スペースの問題ですけれども、最近、かなりスタジアムの建設技術も高度化しておりますのと、あとは2階席になっても、スタジアムのピッチに近い臨場感あるつくりをするので、むしろ2階席とかがグラウンドに迫り出すような形になってきますので、建設に必要なスペースというのは、近年、むしろ下がってきているということなんでしょうと思います。また、日本代表の件に関しましては、本物のワールドカップ予選というのを呼んでくるかどうかという議論になると、ある程度以上の規模が必要となるということなんですけども、オリンピック予選とかキリンカップとかであれば3万人規模でもいけますので、そのへんは、どういう大会を呼ぶのかなというところがポイントになってくると思うんですね。私は、サッカーファンとしての意見も少し入るんですけども、何年かに一度呼べるかどうか分からない日本代表の試合にスタジアムの仕様の規制をかけるというよりも、例えば、トゥーロン国際大会というユースの有名な世界大会がありますし、女子のそういう大会もありますけれども、

フル代表に限らずですね、定期的に開けるような国際大会を広島の中心部のスタジアムでやって、広島という都市の一つの名物にしていくようなやり方が、広島の国際平和都市のアピールとしても、また、スタジアムの経営としてもいいのかなと個人的には考えております。これにつきましては、協議会の今後のセッションのなかで、色々、また鶴野さんをはじめとして知見のある方もいらっしゃると思いますので、ご意見を伺っていきたいと思います。

三浦委員

よろしいでしょうか。

鶴野委員

広島にとってサンフレッチェというのはとても大きな資産だと思うんですね。1万～2万の人を集める力がある。そういうツールを広島のどこに配置するかというのは非常に大事なことだろうと私は思っています。次回の話に近づいてくるとは思うんですけど、広島は過去においては、どちらかというと外に外に人の流れを作っていくような形、これは大学だろうと空港だろうと、ビッグアーチもそうかもしれませんが、それは郊外型で車中心でというライフスタイルで、それはありだと思うんですけど、今の時点では、広島のど真ん中にいかに人を集めるかということが一番大事なことだろうと私は思っているんですけども、そのなかでサンフレッチェというツール、言い方がちょっと悪いんですけど、それをどこに配置するのかというのが一番重要なことだろうと私は聞いて思いました。

三浦会長

資料の読み方としてお聞きしたいのですが、年間入場者数の推移のところ、最近ある程度伸び傾向にあるとのことですが、そういったなかでのビジターの来場者が約5%という数字がでていますが、これは他のスタジアムに比べてどういう数字なのでしょう。

小谷野委員

これは少ないと思いますね。ただ、これはスタジアムのせいだけでなく、Jリーグの場合関東圏にチームが固まっていますので、そういう所はビジターの入場者数が試合によっては20%とか30%ぐらいの所もございます。そうした意味でスタジアムのアクセスの問題と、広島というのが西日本のなかでも離れた地域にあるということの両面は考えていきたいなと思います。ただ、やはり、ナイトゲームをやってしまうと、近畿圏より東の所はなかなか日帰りができないので、本当は、広島で色々観光してですね、ついでにサッカーとかカープの試合を見たいのに、なかなか来れないでいる方が多いというのも良く聞く話でございます。

三浦会長

それともう1点、先ほどの回答されているなかにもあったのですが、入場料単価が安いというのは、現状何か理由があってそういう設定されているのでしょうか。

小谷野委員

これはやはり、なかなか入場者数が伸びなかった時にですね、チケットの値段をずっと据え置いたことが大きいですね。それとあと、シーズンパスの割引率が、他のクラブに比べるとちょっと高いと、例えばSS席でいいますと、だいたいシーズンパスだと50%割引になっているわけですね、5千円のチケットで年間20試合だと本当は10万円なんですけど、これを5万円で販売していると、これは過去の間緯もあるので、社長1年目の私としては値段据え置いたところなんですけど、他クラブとの比較でいくと、ここは本当は上げたいところなんです。ただ、そこを上げてですね、せっかくチームの観客動員盛り上がってきたところで水を差すのも心苦しいなというところもありまして、今のところチケットの値上げというより入場者数における無料招待の部分を徐々に減らしていくという対応を経営では優先しています。

三浦会長

先ほど、Jリーグの方で、スタジアムから5キロ圏が一つの目安として出ていましたが、この5キロの設定の根拠とかはあるのですか。

小谷野委員

これは、5キロ圏内の所とほぼ入場者数がリンクするので、スタジアムをつくる時にはそのへんを考えたほうが良いよと。ただ一つだけ例外があるのが浦和なんです。浦和というのは5キロ圏内は少なく20、3万人なんですけど、浦和というのは熱烈的なファンが、結構離れた都市からでもシーズンパス買って来ているのがありますので、浦和だけはちょっと別格と考えたほうが良いかと思います。

三浦会長

その次のスライドですけども、距離の点で、下の方に浦和とか名古屋とかありますね、先ほど結構動員数多いところで距離が離れていますが、これらはどのようなアクセスになっているのでしょうか。

小谷野委員

名古屋は豊田駅からシャトルバスもしくは20分くらいの徒歩ですね。それから、浦和の場合は、浦和美園駅からシャトルバスか15分くらい歩くという感じですね。ただ、両方ともまっ平らな所ですね。坂とかではなくて、平らな所をずっと歩いていく感じですね。

三浦会長

それは、今、説明された駅名とは違うのですが、別の駅があるのですか。

小谷野委員

これはですね、トヨタスタジアムの最寄は豊田市駅じゃないですかね、それでもっと遠いかもしれません。これはちょっと確認しますが。

三浦会長
浦和は。

小谷野委員
浦和は浦和駅だと思いますね。

三浦会長
あくまで主要な駅で、最寄の駅ではないということですか。

小谷野委員
違います、説明が悪かったです。ごめんなさい。これは、あくまで街の中心の駅からの距離でして、豊田スタジアムだと豊田駅で、浦和だと浦和駅になっていますが、もっと最寄の所はあります。試合がある日にもうちょっと近くまで行って、そこから歩くという感じですね。

三浦会長
これらスタジアムは、大量輸送できる鉄道駅が割りと近くにあるということですね。

小谷野委員
そういう意味でいうとビッグアーチはですね、アストラムラインの広域公園駅で、だいたい700～800メートルなので、距離だけで言うと結構近いですね。ただ、ちょっと登り坂なので、高齢者や障害を持たれている方にとっては大変な状況になっているということでもあります。

三浦委員
他によろしいでしょうか

加藤（義）委員
ひとつ、アウェーからビジターがおられますね、県内でもサンフレのファンもJRで来られる場合があるんですね。JRで来られる時はインターネットで経路調べながら切符かって来るんですね、そうするとJRの可部線の大町で乗り換えようとするわけです。東京から来た人も大町で乗れないんですね。それで、試合開始に間に合わなかったということのでわいわい言っている時がありました。そのような行きかたのPRもいるんだろうと思いますが、横川で降りたらシャトルバスがあるよというのは、全国的にも分かっていないから、ビジターが非常苦勞しているという実態がありますね。

三浦会長
それは、他のチームだと結構ビジター向けの案内がホームページ上で充実していたりす

るので、そのあたりど対比してどうなのかなということですね。資料については最寄駅というか主要アクセスがどのようなものであるかについての資料があればより分かりやすいかもしれないかと思います。

小谷野委員

そうですね、主要アクセス駅からだとまた違った姿になってくると思いますね。

三浦会長

他によろしいでしょうか、かなり色々な情報は今回提示していただいたと思います。資料4－2の方はよろしいでしょうか。

小谷野委員

これは付随したのものでございまして、2011年度というのは震災の影響で試合数少なくなっているんで、ちょっと歪みが生じている数字でございまして、実は2012年度の新しい数字が明日Jリーグから出てきますので、補足ということで次回のミーティングで5分か10分、2012年度の数字でお話させていただいた方がよろしいかと思います。

三浦会長

それでは、次の資料に入りたいと思います。

地元の広島におけるサッカーの文化の根付き具合をどこから読み取るかというのはなかなか難しいわけですし、今回はとりあえず客観的なデータから見ていこうということで資料を用意していただいております。資料5－1から順次見ていただければと思います。私の方から説明させていただきますが、最初に資料5－1としては、小学生の体育連盟の活動ということで、小学校の段階でどうなのかということです。野球はここに入っていないので対比はできないのですが、サッカーは男子児童においては、全体として5000人なかで4000人ということで、パーセンテージとしては高いと、80%近いということが分かります。それから、女子はバレーボールが多いという状況です。それから次の資料5－2がありますが、これは中学校です。中学校でこういった活動を生徒がされているかということですが、男子を見ていきますと、サッカーは在籍者2775名ということです。野球の2573名と比べると、それより多い人数が中学校ではサッカーを部活として行っているということになります。全体でいきますと、女子はサッカーというクラブが無いように、男子と混じってやっていることから、数が少なくなっております。その代わりテニスとかバドミントンが多い状況です。こうやって見ていきますと、男子だけでいくと全体が14000人ほどですが、その20%ぐらいということで、多くの生徒がサッカーをしていることが見えます。それから資料5－3になります、今度は高等学校ですけれども、男子がクラブ数も103と多く、在籍者数が4153人ということです。対比して硬式野球を見ていきますと、クラブ数87で在籍者が3600人ということです。サッカーの方が多いということが分かります。女子の方、高校ですとクラブがありまして24クラブで在籍者数は271名ということで、男子女子合わせると4400人が部活行

動としてサッカーをしているということになります。これは全体を34000人で計算すると10%を超える12～13%ぐらいにはなるかなということで、10人に1人以上はサッカーに関わりがあるのだということが見えると思いますし、男子だけだと更にその比率は高いということが分かります。こういったことから、小、中、高の部活動のなかでサッカーというものがメジャーになっているということが分かると思います。

それから、単に競技ではなくて、先ほどサンフレッチェの方で地域との関わりということがありました。そういったものの一環で、広島市ではDōスポーツ体育指導者招へい事業というものが行われています。下に説明がありますが、小学校にスポーツ選手や地域の競技経験者を招へいし、小学生への指導を通し、体を動かす楽しさや喜びを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ態度を育成することを目的とした事業となっています。こういったなかで選手等が小学校に来てということですが、全体として105校でこういった事業をやっていて、そのうち30%ほどがサッカーとなっています。その次に多いのがハンドボールです。これも広島に有力チームが有りますので高い数字になっております。このように指導として貢献しているということは読み取れると思います。教育現場のなかでもサッカーというのは活用されているのかなと思います。

それから、先ほどサンフレッチェの資料のなかにもありましたが、マスコミとの関わりです。通常のニュース等での取り上げはそれぞれ試合の結果の状況とかが放送されますが、試合そのものについて整理をしたのがこちらです。たぶん先ほどの資料とちょっと差があるかもしれませんが、BS含む数字になっています。サンフレッチェの場合は、ホームゲーム17試合中9試合ということで半分強です。広島東洋カープの場合、ホームゲーム72試合の中で55試合ということで、7割ぐらゐを超える試合は放映されている状況です。カープほどではないですが、サンフレッチェについても試合というものはかなり放映されているというのはあります。

小谷野委員

ACLとか天皇杯とかもありますのでそれを含めるともうちょっとあります。

三浦会長

それでは、資料5－6は県内の各種大会の実績です。2011年度になっていますが、小学生のサッカーの大会がたくさんあるのですが、小学生から中学生、高校生、大学生、社会人と、これは1年間にこれだけの試合、大会が行われていまして、合計欄を見ていただきますと、12300試合行われ、280の大会が行われているということで、先ほどの部活動での関連もありまして、相当のものが広島においても開催されているのが分かるかと思います。

単純な統計データですけども、かなりサッカーというスポーツが広まっている、浸透していることは読み取れるのではないかと思いますし、さらに、小学校、中学校、高校で体験をした人がこれから成長していきますので、上の世代においてもサッカーとの関わりがあった人が増えていく状況にあるのではないかと思います。

小谷野委員

これは県のサッカー協会の方に補足いただいた方が良いでしょうが、シニアも盛んですよね。去年、広島は、うちのトップチームとユースが全国制覇したんですが、それと並んで、50歳以上のシニアの部でも日本一になっていまして、シニアの大会も結構このリストの他に行われていますよね。

事務局

全国大会というわけではありませんが、実際、やられている大会も社会人の方にシニアサッカーとして載せています。

小谷野委員

なるほど、社会人の広島県のシニアサッカーといった中に入っているということですか、分かりました。

三浦会長

こちらの資料について何か質問等がありますでしょうか。

これが、今回用意した資料ですが、まだまだ不足部分もあると思いますが、かなり前回から資料を用意していただいて、私達メンバーの認識等が深まったのではないかなと思っています。それらを踏まえて次回の議論に入っていくことになります。その前に前回の会議で質問がありましたエディオンスタジアムの命名権料について、市の方からそれについて状況説明があるということです。

緑政課長

広島市の緑政課長の古田と申します。広域公園陸上競技場を管理しておりますので、私の方から説明させていただきます。

広域公園の陸上競技場、エディオンスタジアムの命名権でございますけども、これを募集いたしました際に、全国の事例を調べてJリーグのホームスタジアムのなかで、J1で10施設、J2で12施設、計22のスタジアムで命名権を導入しておりましたけども、広島市とまちの規模や経済状況等が比較的似通っていると思われます、中四国、九州のスタジアムの事例を抜き出した平均が年額2700万円でございます、こうした事例を参考に、かつ事前に広島県内の企業を対象にアンケート調査なども行いまして、そうした企業のご意向なども踏まえて、最終的に年額3000万円以上という条件を設定しております。その条件で募集をさせていただいた結果、株式会社エディオンさんから、年額3300万円という募集条件を上回る申し込みをいただき、市のなかで審査を得ましてエディオンスタジアム広島という名称を決定して、本年3月から使用を開始しているという状況でございます。

三浦会長

たぶん、今の説明を聞いて意見もあるかなとは思いますが、それを踏まえていただけれ

ばと思います。

よろしいですか。今日は、ほとんど色々な状況について認識をするということで、資料の説明とその内容についての質問にということに終始しました。最初、私の方でお話をしましたように、これらを踏まえて次回について意見交換をしっかりとしていきたいと思っております。また、資料については見直しをしていただいたりとか、ご自身の方でも関連するものを見ていただいたりして、場合によっては、事務局の方に提示して、次回までに各メンバーに配布ということもあるかなと思いますので、適宜何かあれば提供していただければと思います。それらを踏まえて次回の意見交換をさせていただきたいと思います。

最後にお配りしている日程表の方に都合を記入していただいて、帰られるときに机の上に置いていただけるか、後ほどEメールかFAXで連絡していただけたと思っています。それで、調整をさせていただきたいと思っています。よろしいでしょうか。

小谷野委員

まちづくりのなかのサッカースタジアムということなのですが、前回、サッカー協会の野村さんからご提案いただきました、我々が地元のメディアの方と一緒に海外のスタジアム訪問をした時の取材のビデオが、かなり編集が進んでいますので、もしよろしければ、次回それを上映させていただきたいのとですね、あと、実際の国内の専用スタジアムの見学ですね、これも、委員の方々のご都合がつけば、我々の方でアレンジさせていただきますので、もし、よろしければ、やらしていただければと思います。

三浦会長

提案ありがとうございます。幅広くそういったものを私達は吸収したうえで議論しないといけないと思っていますので、ありがとうございます。

永田委員

ひとつ補足ですが、スポーツについて、まちづくりのなかのスタジアムの位置付けという形で、スポーツツーリズムということが最近盛んに国内外で言われておりまして、広島において、そういった、カーブやサンフレッチェで、県外、市外の方がどれくらい来ているのか、といったことを見ながら、今後、市の中心部に考えるのであれば、ある程度、予測がつくのかなと思いますので、スポーツのツーリズムという面でも検討していく必要があるのかなと思っています。

三浦会長

それは、実は小谷野さんの方に後でお願いしようと思ったのですが、自動車等で来るかとか、遠方から来る方がどこまでか、即ち、Jリーグの配置を考えると、中四国は無いですよ。そういった状況のなかですと、広域から集めるポテンシャルはあるのかなというところを見たときに、実際はどうなのかということですね。おそらく、それはサンフレッチェだけではなくて他のチームはどうなのかということも対比とした何かがあるとイメージが付きやすいのかなと思います。そこで、どういうところを伸ばせばそれをもっと広め

られるかということを考えると、多くの方が広い範囲から広島という地に訪れていただくようになり、最初に言いましたようなまちづくりの観点とか経済の活性化という面でプラスになると思います。そのあたりの今のところ制約になっているところ、あるいは現状について把握をしていきたいなと思っています。

永田委員

更に補足させていただきますと、広島は外国人から見た日本における観光スポット第1位と第4位が広島界限にございますし、そういった外国人の観光客の広島への来広数といったものも含めて見させていただきたいなと、例えば修学旅行でどのような人員がこちらに来て、例えばマツダスタジアムやサンフレッチェの方へ観戦に行ってるかというものも必要になってくるかなと感じております。

高木委員

ご意見ございましたけども、まちづくり関しましては、もっと多様な意見があるので、例えば広島というのは3大プロがございまして、みんな広島に住んでいる人はその3大プロが好きなんですね、だけどそのなかで何を応援するかってことは、それぞれ皆バラバラで、さっき山根さんがおっしゃいましたけど、やはりこのグループは本当にスタジアムが必要なんだ、つくりたいっていう、そうしたいという皆が納得できるものをつくりあげていくのが仕事かなと思ひまして、何か他所のマネというより、広島が唯一原爆の中から立ち上がったまちなんですね、その再生の歴史とか、今、修学旅行とかお話出しましたが、もっと大きな視点で考えましたときに、あの平和公園一体、本当に過去の惨禍のなかから立ち上がった歴史と言いますか、そういうものを一番やはり外国の方は認めておられるんですよ。あの平和公園一体を、そういうことの含めてもっとまちの中でサンフレッチェがどのようにいったら、広島の人達の夢が叶うのか、もっと少し大きな視点で語り合うことが必要じゃないかと思うのですけども。

三浦会長

これについては、例えば、ちょっと分からないですけど、Jリーグの場合で、海外の方がJリーグの試合を見に来るといふこともある程度進んでいるという情報はあるのでしょうか。

小谷野委員

これは率直に言ってまだまだですね。アジアチャンピオンリーグで今回3試合ホームでもやりましたが、やはりまだまだ数百人規模だと思います。一方でJリーグとして今後アジア進出を考えていきたいという部分はありますので、そうしたアジアからの訪問者をどう取り込んでいくのかというのは、アジアの人達にJリーグの放送権料をどう売っていくのかという議論と併せてですね、重要なポイントになってると思います。

加藤（義）委員

先般、ACLがありまして、中国とサンフレッチェがやる、その時に広島県下の中国からの留学生に声をかけたんですよ。すると100人あまり留学生が、無料ではなく有料で来てくれて、中国のゴールサイドで観戦しました。ちょうど、1対1の引き分けで良かったんですけど、ものすごく盛り上がって留学生が喜んで帰りました。そういうことが一つと、何か、別の視点ですけど、次の回の広島のまちづくりにおけるスタジアムの位置付けというテーマは非常に難しいんですね。私にとっては、広島のまちづくりというのは何があるのかというのがよく分かってないんです。従って、市から来てもらって、まちづくりをどうだという説明を聞いてもいいんですけど、私達は、広島のまちづくりの議論をしようという思いはないので、やはり、スタジアムをつくったらどんなまちづくりができるかということ、色々な他所の事例とかで、私達が考えるのは、これは可能なんですね。広島のまちづくりにおけるというその前段は、きちっとテーマどおりにこなしていこうかなと思うと、もうちょっと広島のまちづくりというのはどう考えたらいいのかということ、先ほど高木さんがおっしゃったような文化、芸術、教育も含めて、どうしたらいいのかというのを議論しないといけない。そこのところは、今、私達が取り組むべきテーマなのか。やはり、スタジアムをつくった時に、まちづくりにどれだけ貢献できるかというテーマならですね、私達が参画できるんですけども、そこらへん整理ができればありがたいですね。

三浦会長

そこはですね、市とか県とかがどういうふう将来ビジョンを描いているかということ、私達がまず認識したうえで、そのなかでどことの関わりができるかということ、考えないといけませんので、次回以降でそういったことについては、ここで共通認識する機会を設けようと私の方では考えております。当然、市、県全体のまちづくりビジョンに対しての私達がどうこうする場ではありませんが、そのなかでこの協議会と方向性が一致しているというところが出てくると思いますので、そこをどう伸ばせるのかということ、サッカーを通じて議論できると思っています。あとは、ちょっと先ほど質問したのは、やはり、今回サッカーというものを考えた時、今は国内の状況だけを見ているが、広島というまちを考えると、国際的な視点でのスタジアムということは必要だと思います。先ほどあったように、フル代表のW杯出場を決めるような試合でなくても色々な試合があるということであれば、そういうこともイメージをしつつ、地域で集客する、地元の方から愛されることもありますけども、世界の方を招き入れるような視点もやっぱり広島としては持っていく方向ではないかなというイメージを持っていますので、そのあたりも踏まえて次回意見交換とかできればと思っています。

また、内容については事務局等と相談して、ご提示をして用意をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の協議会は以上で閉会といたします。ご協力ありがとうございました。